

令和元年度第4回エリアマネジメント協議会就労福祉健康専門部会 意見まとめ

< 総論 >

利用者層について

- ・検討にあたっては、各機能の利用者層（ユーザー）について、労働者、元労働者、町会の人など、様々な層をイメージすべきである。
- ・実際に機能を提供する側（プレイヤー）の検討も大事である。
- ・まちのコンセプトを良く考えることが一番大事である。
- ・労働市場に乗らない若者（従来とは違う層の困窮者）は、今後増えていくと思う。

< 部会として一番大事にしていくもの >

相談機能

- ・若年の就労困難層、障がい者、母子世帯等も含めた相談窓口が必要である。

住民が集える場所

- ・市民館的な機能を確保していく必要がある。

< その他 >

- ・寿町のセンターでは、施設の「やわらか管理」との言葉の捉え方が人によって違ったため、事後にトラブルになった。重要な言葉・フレーズについては、その内容を良く確認しておくべきである。
- ・分館や市民館のバリアフリー化を行っていくべきである。

【参考】

横浜市寿町健康福祉交流センターの感想

- ・利用者が生活保護を受給していることを前提とした施設である。
- ・健康相談はアウトリーチをかけておらず、利用者が少ない。
- ・居場所は小ざれいな人が多い。野宿生活者にとっては「居付きにくい」空間である。
- ・利用者層は、高齢者・障がい者などを中心として限定的である。